

気象ビジネス推進コンソーシアム第 10 回運営委員会議事概要

- ・日時 平成 30 年 10 月 4 日（金）16：00～18：00
- ・場所 気象庁 5 階 大会議室
- ・出席者 委員 18 名中、15 名出席（2 名代理出席、3 名欠席）

は、運営委員あるいは事務局からの発言を示し、 は運営委員の発言に対応する事務局の発言を示す。

< 審議事項 >

1 . 運営委員の変更

【決定事項】

株式会社三井物産戦略研究所の人事異動に伴い、WXBC 細則第 8 条に基づき、金城氏を平田氏の後任として運営委員に選任した。

2 . WXBC 共催の承認

【決定事項】

シンポジウム「農業に役立つ気象情報の利用 - 栽培支援から災害対策 - 」に関する WXBC との共催申請について、承認する。

3 . 第 3 回 WXBC 総会、気象ビジネスフォーラムについて

フォーラムに関しては、来場者にとって有益なものにすることが必要。去年を参考に資料を作成いただいているが、基調講演やタイムスケジュール等も含め、何か良いアイデアはあるか。

事務局が検討している基調講演（AI、IoT の専門家）は、誰か考えておられる方はいるのか。

AI、IoT 関連のテーマで検討しており、事務局として想定している方はいるが、この場で有益なご意見があれば広くいただきたい。

外部から講演者を呼んだ場合に謝礼金は発生するのか。

気象庁の基準に則った謝礼金はある。その基準以上の大きな額は厳しい。

フォーラムに関して、他にも具体的な方向性やこんな方が基調講演に良いといったご意見があればいただきたい。

基調講演に関して、メーカーの人間だと色々縛りがあると思うので、研究機関でビジネスとなると産総研さん等が AI をやっているのが良いと思うが。

どこに趣旨を置くかが大きいと思う。「WXBC の知名度を上げていく」という趣旨なら分かりやすい方でよいと思うし、アカデミックな方面の方に講演を行っていただくやり方もある。そういった趣旨をまず定める必要がある。

司会の方も含めて誰でも知っているような方をお呼びしつつ、パネルディスカ

セッションではビジネスの話を、と両方頑張りたい。WXBCには人脈形成やビジネスへのヒント、シーズ・ニーズといった期待もあるので、何か得ていただくものがあるイベントにしたい。

集客力のある人間を基調講演に依頼したい、ということと思う。WXBCで活動していても周りの状況を見ている、「気象ビジネスとしての活動数が着実に増えている」というメッセージを強めることが重要である。だから事例は多く出したほうが良い。

一方、裾野を広げる活動も行っていないといけない。基調講演は華やかでかつビジネスに上手くはまればよい、その方向で調整をかけていただければと思う。確実性に加えキャッチーな観点もイベントから感じられることが必要。こういったイベントを行うからには、何らかの風を起こしたり問題提起を行ったりするなど、良いことも悪いことも併せて得られるイベントにする仕掛けが必要である。

総会のところで次年度の活動計画の話があるが、全体像が見えるよう見通しやスケジュール感を教えていただければ。というのも、WXBCの「パートナー発見・マッチングの場」「知識・技術の習得の場」といったWGはあるが、「気象ビジネス展望の議論の場」のWGが無い。そろそろこの辺りも含めた来年度の活動方針を、気合いを入れて検討する必要があると考える。

資料の38ページのとおり、次回の運営委員会は12~1月上旬を検討しているが、これより前にフォーラムの講演者等を決定する予定である。気象ビジネス展望に関しては、頂いたご意見を踏まえて次の活動計画に反映できるようにしたい。運営委員会より前に有志で集まり、気象庁も交えて検討していきたい。

【決定事項】

WXBC 総会については了承、気象ビジネスフォーラムは参加者にとって有益な内容となるよう講演者等を検討する。

<報告事項>

1. 人材育成 WG、新規気象ビジネス創出 WG メンバーの変更

メンバーで「非公開」というものがある。メンバーには入っているが秘密であるというのはどのような理由か。

それぞれの意図があると思う。例えば、ライバル会社に知られたくないということがあるかもしれない。

非公開メンバーに関して、WGへの出席の意志については確認しているか。

WGへの参加については確認しているが、WGへの出席の意志については確認していない。

非公開メンバーであっても、WGでも活動していただければ良いというスタンスか。

そのとおり。

2 . WXBC 共催の承認

意見無し。

3 . WXBC 名義使用の承認

アイデアを募集するイベントで、企業が参加するのはなぜか？

公共交通事業者からはチャレンジという目的でデータを提供していただいている。現状、公共交通のデータを使ったサービスを考えるには、こちらに参加するしかないことから各企業が参加している。

4 . 人材育成 WG 報告

資料に、「wxbcgrib ライブラリ」とあるが、WXBC 用に作成したのか。

その通り。Python の GRIB2 処理ライブラリである pygrib を利用しやすくするように作成したものである

環境構築が大変だとのことだが、Docker などのソフトウェアを利用して配ればよいのではないか。

環境構築に関しては、知識がなかったこともあり、仮想環境を構築する形で今回実施することにした。

WXBC の活動は、気象庁が人員と労力を割いてホームページできちんと気象データについて情報提供だけ行えばよいのではないか。

技術情報で何ビット目に何が書いてあるという情報はきちんと出されているが、今まで気象庁は、定義さえ出せばあとは利用者の責任であるというような態度だったように思う。しかし、これから新しく気象データをビジネスに取り込もうという人々全員に、一から定義書を読んでコーディングすることを要求するのは厳しいと思う。GRIB2 ファイルもプロダクトによって「個性」があり、一つのツールで読めない、違う数字が出てくるというようなことがある。GRIB2 を作成する人、GRIB2 を解読する人、データを利用する人がばらばらなために、全てを通して理解している人は気象庁も含めてほとんどいないのではないか。今までのやり方が間違いだとは思わないが、これからは、現状で不十分な部分を改善していただきたいと思う。

気象データを利用したビジネスへの機運を高めるという WXBC の目的を考えると、一人では出来ない人やきっかけが無い人があるレベルまで引き上げることも WXBC 自身の役目だと思う。また、コース開発を行うことが、我々自身のスキルアップの機会になる。

本当に気象データのビジネスへの普及を図りたいのであれば、必要に応じて予算を確保した上で、データを提供する気象庁側が、多くの人々が苦労なく使えるようにすべきだと思う。予算が増えない状況のなかで、解決策として民間や

WXBC の助けを一部借りる必要があるというのなら理解できる。

ご指摘の通りと思う。防災、交通の安全、産業の興隆への寄与を目的として情報、サービスを提供するのが気象庁の役割であり、気象事業者を含めた様々な民間会社に情報を使っているところであるが、我々の説明が今まで十分だったかと訊かれれば、十分ではなかったと思う。予算要求についても、努力をしていきたいと思う。気象データを分かりやすく使ってもらおうという気象庁の姿勢を見せるため、気象庁ホームページの改善など、様々な取り組みを行っており、今しばらくお待ちいただきたい。個別のニーズについては民間気象会社であるということではあるが、それが広がるきっかけを作るために産官学連携の WXBC を立ち上げていただいたと理解している。

ご指摘については、気象に限らずあらゆる分野のデータに言えることと思う。データの十分な説明についても、それが可能であれば既に実施しているのではないかと。気象データ分析チャレンジ！等の内容については、コンピューターを専門とする人間から見ても違和感ない内容だと思う。データの複雑さを考えると、取り扱いを全て文章化するのは不可能。

このことはとても重要と思うため、時間や機会を捉えて、議論を進めてほしい。3年目を迎えるにあたり、現在の問題点を洗い出し、今後どうしていくのかを策定していく必要がある。

IT 会社としては、気象データを使う技術の存在にこの活動を通じて気づいた面がある。電力や工業等、気象とは関係のない分野のシステムエンジニアも気象庁のデータを使うことは使っていたが、深い使い方を出来ていないということにも気づけた。気象データ分析チャレンジ！に自社の人間を参加させることで裾野を広げることが出来ており、こうした機会を与えていただいていることに感謝している。予算要求をしていることについても把握しており、現状の気象庁や WXBC の取り組みに違和感はない。国として様々な分野に気象情報を使うことを進めていくのであれば、経済産業省等の他省庁との連携を持つとよいのではないかと思う。

5 . 新規気象ビジネス創出 WG 報告

WG のメンバーが増えており、前回の WG では2階の講堂で実施した。非常に多くの人数がいるため、WG の力になりたいという気持ちで出てきているのかが分からない。WG のメンバーについても、棚卸しをしないと通り一遍になってしまうのではないかと。

データ流通・利活用のための基盤ということで、データジャケットとブロックチェーンを使って、各企業のデータを入力してもらい、どういうふうにつながっているかをキーグラフという形式で図示するツールがある。丸の内の関連企業でビジネスが繋がらないかという実証をしている。

WXBC で活用することで、各企業・気象庁が持つデータをつっこみ、つながりが見えるようにすれば、ある角度で自分の企業にはこのデータがマッチするのではないかというヒントを与えてくれたり、企業間で協力できるところが表せたりするのではないかということで提案したが、先日のWGでは賛同してくれる企業がいなかった。スモールスタートですすめたい。来年度以降、こういった仕組みを長続きさせられるようにも考えたい。

データジャケットはデータの秘匿性を保ったまま共有できる安心なシステムであり、優れたものである。ぜひ使えるとよい。

6. 新たな気象ビジネスの状況

いろいろなアイデアがでてきているが、知財や特許はどうなっているか。ビジネスモデル特許など色々なものがあるが、特許は押さえているか。気象データを使って色々コントロールをするなど、かなり特許を押さえられていそう。アイデアがあっても、実際にやるとなると危ないのではないかという印象がある。特許をみんなで調べると大変なのである程度共同でできるとよい。私は、IoTの特許の特許庁で調べて公開するようなことをしている。この業界はどうしているか。最後にビジネスにしようとした際に、特許がおさえられており、どうしようもないことがないように、そういったことも考える必要がある。来年度の活動になるかもしれない。

特許をとったという例は聞いたことがある。調べてみる。

7. 広報関係

YouTube アカウントを取得することを計画している。YouTube チャンネルでは様々なメッセージを発信したいため、様々な願いをする場面もあるかと思うが、ご協力をお願いします。

8. 今後のスケジュール

次回運営委員会は、本年12月から来年1月の間で開催予定。

9. その他

気象庁過去データ試用提供は、なぜ会員限定なのか。

限定にしないと、アクセスが殺到してサーバーがダウンして迷惑がかかるためか。そのとおり。

データのライセンスはどうなっているのか。我々政府のオープンデータを進めて、それは再利用可なので、負荷がかかるというのであれば再利用してコピーを買ってよ、とすればいい。負荷が原因なのであればライセンスを工夫すれば十分対応できると思う。政府のオープンデータもそういう風にやっている。気象データ自体は、個人情報のようなところは無く著作権も無いので、一度お

取りいただければ再配布はいくらでも可能。

データに著作権は特に無いので、今は標準で CC BY というのがあり、それに準拠としていただけると。皆さんライセンスを熟知しているのでそういうライセンスを合わせてもらえると、今言ったようなことを皆さん協力しやすくなると思う。

<最後に議論>

経産省や JAXA が衛星データのプラットフォームを整備して目指しているところは、ベンチャー企業がデータをとれるようにするなど、インターフェイスの改善である。そういう誰もが活用できる環境があると色々進むのではと思う。過去データについてはそういった環境を始めたいと予算要求をしているところ。すべての気象データとはいかないが、そういったことを会員限定ではなく目指している。

以上